

喜多方ロータリークラブ
4月1日 会員スピーチ

地域の要望を **カタチ** に
そして
これからへ



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます





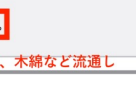
福島県議会議員 江花 圭司

地政学的くり返される喜多方の歴史

第1章 喜多方まちづくりの基礎

02 固有の風土・文化を育んだ、郷土の気概と営み 喜多方・まちの歴史

喜多方・まちの歴史年表

縄文	雄国山麓に人が住み始める。
弥生	水稲耕作が伝わり、集落が低地に広がる。
807	僧「徳一」が恵日寺を開き会津に仏教文化が栄える。
1055	源義家が熊野神社を岩沢・宇津野・新宮に遷座。
1189	佐原十郎義遠が会津最初の領主となる。 上三宮に願成寺開山(鎌倉時代)。 
1536	大洪水がおこり、押切川ができる。 中田付村で十二斎の市がたち 山の民の所得向上 山の民と農村の民が物資交換 ・農村へ山の恵が流通 声名盛氏の命により小荒井の町割が行われる。 (これ以前に中田付に市があったとされている。)
1564	小荒井村に毎月2と7の日を市日と定めて六斎市を開く。
1579	左瀬大和が小田付の町割を行う。市を 小荒井村と小田付村で二分し三斎市となる。 
1582	伊達政宗が上原の戦いで声名氏を破る。 彌生氏郷が会津に封ぜられる。
1589	彌生氏郷が会津に封ぜられる。
1590	交通手段の発達により 町場に市がたち流通
1601	熊倉村に月六斎の市がたつ。 
1611	慶長大地震がおこる。
1649	保科正之が会津本街道5筋を定める。
1673	このころより喜多方地方に藤樹学が盛んになる。 
1788	熊倉村、小田付村、上三宮村に代官所が設置される。
1858	岩田善内が濁川から「阿賀川への舟運を開く。」 

古くは信仰・仏教文化が花開き、やがて農村の定期市によって基礎がつけられた商人のまち喜多方。近代以降は、工業化・都市化の波の中で、農・商・工のバランスあるまちへと姿を変えてきた。蔵を中心とした文化あふれるまちとして全国に知られるまでの、喜多方の生い立ちを追う。

(1) 古代～中世(縄文時代～弥生時代)

この地方には、1万年前頃から人が住んでいたと言われている。縄文中期、雄国山麓の扇状地上の急斜面には狩猟・採集に適した豊かな自然があり、水の便もよく、縄文文化が発展した。その後、水稲耕作が伝わり、会津盆地に集落が増加する。

(2) 平安時代

■仏教信仰

徳一が恵日寺を創建し、会津に仏教文化が花開く端緒となった。また、天保年間(1053～58)に上三宮町・慶徳町・熱塩加納町に熊野神社が勧請され、喜多方は会津における熊野信仰の中心となった。

(3) 鎌倉時代～室町時代

■声名氏の会津支配

会津最初の領主・佐原十郎義遠により、青山城や新宮城など領土の居城が建てられた。その後、15世紀室町時代に黒川(今の会津若松)の声名氏が新宮氏を滅亡させ、佐原氏も姿を消し、声名一族が会津盆地から喜多方地方を広く掌握するようになった。

(4) 安土・桃山時代

■町割りや定期市のはじまり

1564年、82年にはそれぞれ小荒井、小田付の町割が行われた。山の民と農村の民が物資交換するため、中田付村で十二斎の位置が開かれ、その後、小荒井・小田付に移された。この定期市が商家の礎となり、在郷町が形成されていった。
小荒井と小田付の市は、阿賀川舟運と越後裏街道を通じて越後地方ともつながっており、喜多方からは米が、越後からは塩・海産物などがばれた。

(5) 近世(江戸時代)

■定期市の保護育成

幕府は武士・商工業者を城下町に集住させた一方で、城下町以外の農村には小荒井・小田付などの定期市を育成した。

■酒造と醸造業を支える蔵

喜多方の良質な湧き水を利用した酒造が行われるようになった。味噌や醤油などの醸造業も盛んになり、この頃から喜多方に醸造のための蔵が建てられるようになる。

産業 流通

1868	戊辰戦争が始まる。鶴ヶ城が開城される。
1873	小荒井小四郎が喜多方製糸工場を開業する。 近代産業の創出 喜多方町制施行される。 令和の近代産業は? 一地域の恵を
1875	DXwebサービスの拠点化 喜多方大火、蔵の重要性が再認識される。 雇用創出し民間主体で流通
1880	県令三島通庸のもとで会津三方道路着工(米沢街道は1884年完成)。 自由党員らによる喜多方警察署の襲撃(喜多方事件)。 地域ポイントで市民福利の向上
1882	磐梯山噴火。
1888	岩越鉄道(若松～喜多方間)開通。
1904	喜多方製糸業組合結成。織物業が発展。
1906	野口英世が帰郷。喜多方でも講演。
1915	喜多方町で米騒動。
1918	喜多方町中央公園設置に関する建議(御清水公園など開設へ)。
1924	国鉄日中線(喜多方～熱塩間)営業開始。 昭和電工を喜多方に誘致。
1938	東京から喜多方町への学童集団疎開。
1944	昭和26年から喜多方区画整理事業が花園町で行われる。 喜多方市政が施行(1町7か村合併)される。
1951	大峠道路が一般国道121号に指定される。
1954	webサービスと配送センターで 山と農村の恵を流通
1965	蔵と食堂ラーメンの地域振興
1972	金田美氏の蔵の写真展開催。
1975	NHK新日本紀行「蔵ずまのまち喜多方」が放映される。 区画整理事業が盛んになる(市内最大規模の西部区画整理事業など)。 日中線が廃止される。 喜多方ラーメンのブーム(1985～)
1984	HOPE計画が策定される。
1987	「蔵の里」が整備され、蔵が移築される。
1993	蔵の会が結成。
1995	まちづくりの動きが活発化する(2001年頃～)。 新制喜多方市政が施行(1市2町2村合併)される。
2006	「市」が南下し町場で隔月マルシェ開催

■藤樹学・庶民文化

藤樹学が北方地方を中心に庶民の間に広がった。明治初期まで多くの人々によって学び継がれ、会津藩校日新館の教育にも影響を与えた。また、村役人や酒造業者を中心に裕福な農民・商人層が成長し、庶民文化として併蓄が盛んになった。

■戊辰戦争

戊辰戦争では会津平野が戦場となった。喜多方にも戦火が及び、小田付が焼かれた。鶴ヶ城に籠城していた会津藩最後の藩主・松平容保は1868年9月に落城した。

(6) 明治時代

■養蚕・製糸業

喜多方製糸工場の開業は会津地方での器機製糸のきっかけとなったが、明治末期には経済不況から糸価が下落し、零細企業は淘汰された。

■蔵の重要性を再認識

1880年の大火から焼け残った蔵に対する認識が強まり、他の地方では珍しい蔵屋敷など、多くの蔵が建造されるようになった。会津三方道路が開削され、喜多方が新米沢街道の重要な経由地となった。

■喜多方町の誕生

1875年に小荒井村、小田付村など5村が合併し、喜多方町が誕生した。また、99年には加納鉾山が騒動されて全国有数の鉾鉾山となり、好景気が蔵の増大に寄与した。

■岩越鉄道の開通

まちの人々の運動によって岩越鉄道が喜多方駅を經由して延伸した。漆器や酒造、生糸などの主要生産物に外販の道が開け、生産が飛躍した。

(7) 大正・昭和以降

■蔵のまち喜多方

小荒井・小田付の商人たちが残した蔵が、1972年の金田美氏の写真展を契機に注目され、1975年のNHK新日本紀行により「蔵ずまのまち」として知られるようになった。

■日中線の営業

1938年、喜多方駅と熱塩駅を結ぶ日中線が開業した。当初は栃木県今市から喜多方を經由し山形県米沢に到るという壮大な計画の一部だったが、赤字ローカル線となり1984年に廃止された(現在は線路跡にサイクリングロードが整備されている)。

■ラーメンのまち喜多方

大正期に中国出身者からたらされ、地域に根づいたラーメン。「蔵のまち」として知られるようになって以降、次第に人気を集めるようになり、現在では蔵と並んで喜多方の観光を牽引している。

農商 所得向上と食料確保には市の回数を増やす、外貨を稼ぐ仕組みづくりが必要

地政学的くり返される喜多方の歴史

喜多方は在郷町として成り立ちました。

- ・山の民、農村の民は、山の幸、作物を町場で販売して生計を立てていました。
- ・町場の商人は、山の幸や作物を加工し
酒、味噌、醤油、木綿、米などを舟で近畿地方へ流通
外貨と赤穂の塩を持ち帰ってきて、さらに加工品を作って財を築いて
蔵が多く建った歴史的な背景があります。

近代化とともに、徐々に仕入れ商売が主に
原価率が高く、物価高騰のあおりを受けやすくなり
薄利となり疲弊してしまっているのが現状。



地場の素材を使用した商品開発と流通を徹底する
中間マージンを省き、域内循環で余分なものを域外へ流通
Webサービスにより外貨が入ってくる仕組みづくりと雇用と地元定着を図ります。



喜多方市街地へ「7つの提案」

1. もう一度蔵を使いこなす



1. もう一度蔵を使いこなす

2. 歩いて心地よいみちにする



2. 歩いて心地よいみちにする

3. 極上の会津文化を味わう



3. 極上の会津文化を味わう

4. 滞在時間を倍増する



4. 滞在時間を倍増する

5. くらとにわを育む



5. くらとにわを育む

6. 水と緑を中心につくる



6. 水と緑を中心につくる

7. まちづくり仲間を増やす



7. まちづくり仲間を増やす

～ 稼ぐ7つの提言 ～

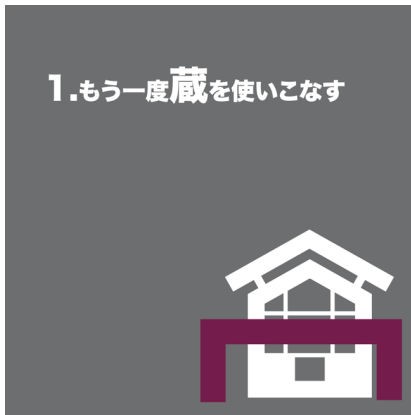
1. もう一度蔵を使いこなす
2. 歩いて心地よいみちにする
3. 極上の会津文化を味わう
4. 滞在時間を倍増する
5. くらとにわを育む
6. 水と緑を中心につくる
7. まちづくり仲間を増やす



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

福島県議会議員 江花 圭司

1 もう一度 蔵を使いこなす



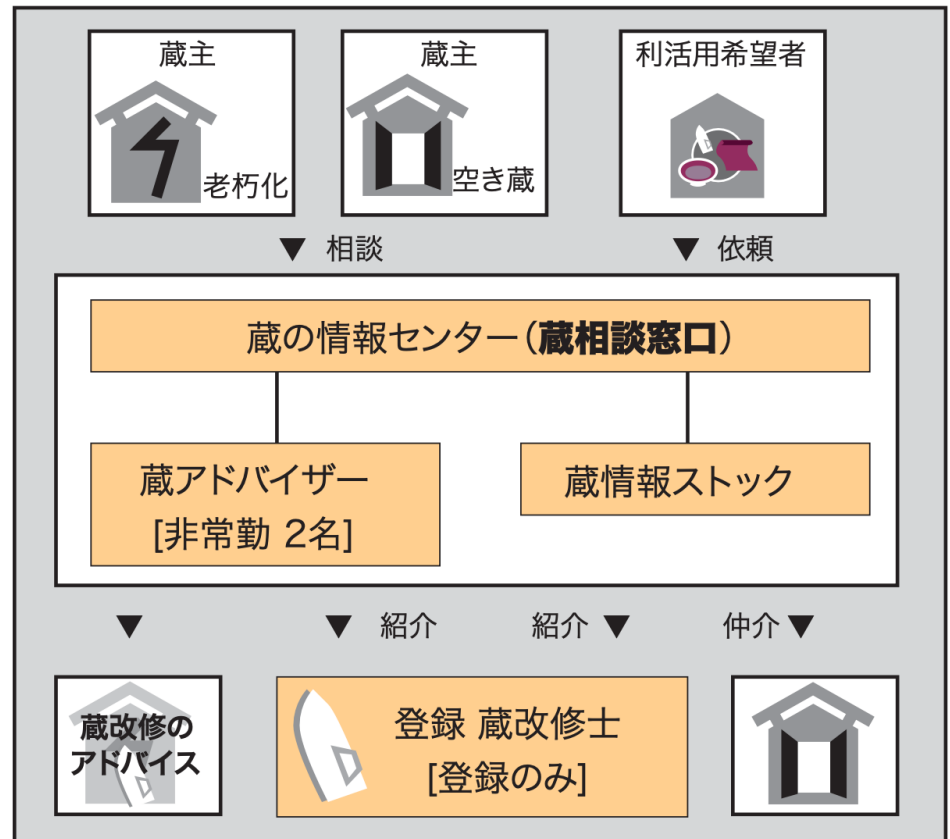
蔵と資源の再活用徹底へ

- ・アドバイザーによる蔵利活用相談窓口
- ・蔵バンクの設立
- ・web shop配送センター

【制度】

- ・相続義務化の罰金制度2028年
- ・遺品整理士の資格や、一般廃棄物収集運搬許可、古物商許可などの許認可

[組織イメージ(初年度～3年度)]



[組織イメージ(4年度以降)]



2 歩いて心地よい道にする

2. 歩いて心地よいみちにする

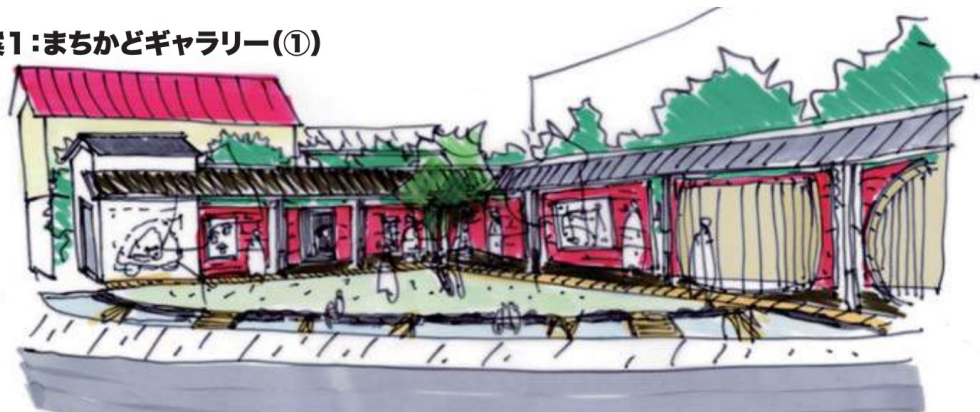


まちかどづくり心地よい歩行空間

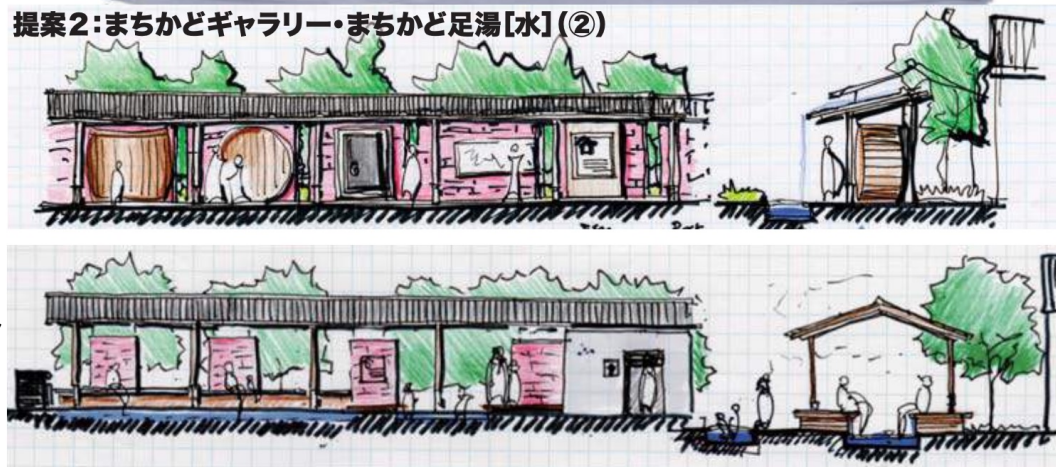
自分がどこにいるのか、まちなかメリハリ
交差点(まちかど)は重要な役割
まちかどにシンボルとなる空間をデザイン
憩いの場、井戸端会議、休息スペース
心地よくわかりやすいまちかど創出

- ・まちかどづくり
- ・よこみち、裏道、蓋かけ水路の再生

提案1:まちかどギャラリー(①)



提案2:まちかどギャラリー・まちかど足湯[水](②)



まちかど整備の期待される交差点

- ①吉の川酒造交差点(ふれあい通り)
- ②笹屋旅館・若喜商店交差点(ふれあい通り)
- ③三浦屋前交差点(小田付)
- ④菅井屋薬房前交差点(小田付)



2 歩いて心地よい道にする

2.歩いて心地よいみちにする



よこみち・うらみち・水路再生

[整備のステップ]

マーケット・新仲横丁・緑町・月見橋

- ①街路整備による快適なよこみち空間の整備
- ②よこみち整備の方針策定
- ③民間主導による「おもてなしの花小径」事業

- 道路の舗装:アスファルト型押し石畳等
- 足元灯での歩行者照明誘導
- くらにわ事業との連携した小広場の創出

水をまちなかに引き込む



3 極上の会津文化を味わう

平成21年2009年

3. 極上の会津文化を味わう



Happy Wedding

昔ながらの古い町並みを通り、たくさんの人に祝福されながらの花嫁行列。古式ゆかしく趣ある建物の中での結婚式。

喜多方ならではのオリジナリティあふれるお二人の結婚式。人それぞれに好みや考え方、個性があるように、結婚式を挙げられるおふたりの考え方や好み、個性を大事にし、“おふたりらしさ”を見つけ、最高の結婚式を実現するためにお手伝いさせていただきます。まだ結婚式への考えがまとまっていない、イメージが浮かばないという場合でも、私たちがおふたりの想いをしっかりと受け止め、誠心誠意、ご提案させていただきます。



とっておきの場所を

とびっきりの思い出...

そんな結婚式を共に

作り上げましょう。

喜び多い蔵の町喜多方で
「喜びと感動あふれる蔵の結婚式」を
挙げませんか？

花嫁行列はベロタクシーで



喜多方の酒で水合わせの儀



ロウソクの明かりでの中の盛り



學式は蔵の中で...



私たちが提案させていただく
ウェディングプランの中の一部を
ご紹介致します。

米穀を使ったオリジナルウェディングケーキ



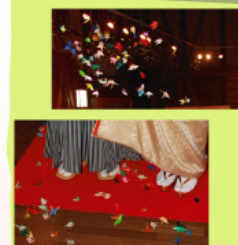
和のおもてなしの祝宴



地元の食料を使った贈り料理



折り鶴とライスシャワー



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

福島県議会議員 江花 圭司



4 滞在時間を倍増する

4.滞在時間を倍増する



喜多方の新しい観光スタイル戦略

- ・温浴休憩施設
- ・蔦屋cafe、無印良品
- ・蔵泊、農泊、一棟貸
- ・マーケット横丁振興
- ・仲町横丁マルシェ
- ・ロケ地聖地巡礼
- ・足元灯での誘導



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

福島県議会議員

江花 圭司

4 滞在時間を倍増する

4.滞在時間を倍増する



雰囲気よく
歩ける
夜のまちを



暮らしの灯りがあふれる通りに・・・

店先の灯りや門灯、家の中からもれる光を見ると、暗い夜道でもほっとします。街路灯やショーウィンドウの灯り、看板照明や門灯・行灯など様々な灯りを組合せながら、魅力的な夜のまちをつくっていきましょう。



喜多方の新しい観光スタイル戦略

- ・温浴休憩施設
- ・蔦屋cafe、無印良品
- ・蔵泊、農泊、一棟貸
- ・マーケット横丁振興
- ・新仲マルシェ
- ・ロケ地聖地巡礼
- ・足元灯での誘導

本屋さんと
カフェの併設



5 蔵と庭を育む



蔵と庭による外部空間整備

- ・ほこみち制度活用
歩行者利便増進道路
- ・水を庭に引き込む



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

6 水と緑を中心につくる

6.水と緑を中心につくる



景観と環境を生かしたまちづくり

- ・かわまちづくり支援制度 活用
デッキ・遊歩道
構造物・オープンカフェ
- ・水を庭に引き込む
- ・オートキャンプ



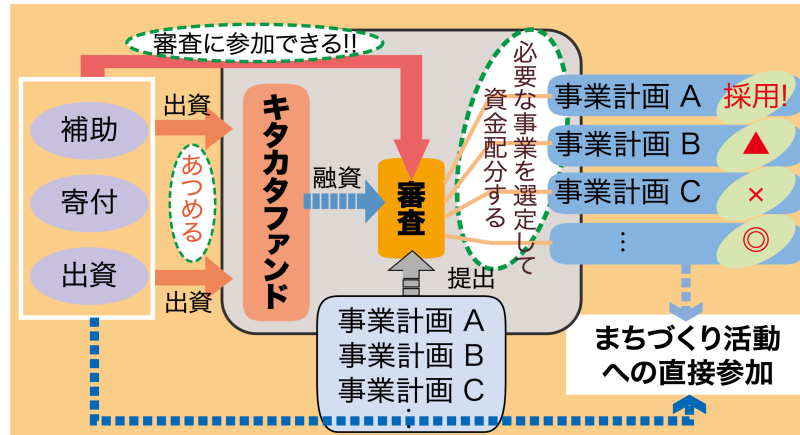
堤防と一体となった憩いのテラス

憩ま 閑
いち上
のをの
テ照
ラら
スす



7 まちづくり仲間を増やす

【事業イメージ】 参考 世田谷まちづくりファンド



組織体制支援体制の確立

- ・アーバンデザインセンター
- ・都市集約型成長管理団体
- ・民間カタカタファンド
- ・蔵ポイント会員
- ・カタカタ大学

- ・webサービスオフィス拠点
コワーキングスペース街
市民向けデリバリー、配送センター



7 まちづくり仲間を増やす

7.まちづくり仲間を増やす



地域学事例
事例18 シブヤ大学

【東京都渋谷区】



地域を中心とした、活動・教育・情報の器



▲教室となる施設のイメージ

ークな講義をHP上で公募して決める。まちに眠っている「才能」や「経験」をつねに発掘することが目的。審査委員会による審査後、面接を経て、晴れて先生となる。誰もが先生となり、生徒となる、「教える」と「教わる」を自由に行き来できる教育の場を目指している。

また、渋谷区内の小学校や中学校からの要望を聞き、授業をプロデュースする活動も行っている。企業やNPO、NGOとのコラボレーション授業など、子どもたちに「生の社会」に触れてもらうためのさまざまなプログラムを実行している。

授業の例としては、シブヤ西武B館6階を教室としたスーツの着こなし講座や、区内のボウリング場で行うボーリング講座、明治神宮での夜間参拝など、渋谷区ならではのものが多く実施されている。

■地域密着型の教育プログラム

シブヤ大学とは、生涯学習を推進するNPO法人であり、いろいろなものがありさまざまな人がいる「シブヤ」という場所を活かした新しい地域密着型の教育をめざすプログラムのこと。渋谷じゅうの施設と連携しながら、講演会やイベント、小学校への授業カリキュラム提案などの教育事業を行うことで、「地域」というゆるやかな枠組みの中でのフレキシブルな活動・教育・情報の器をつくる。

新しいカルチャーやビジネスが集まるまちである渋谷と、知性や好奇心を満たす場である大学の、それぞれの良いところを取り入れようというのがコンセプト。渋谷の様々な場所が教室になる。

■授業の方法

授業は毎月第三日曜日に行われる。web上で手続きをし、授業に申し込んで、受講することになる。先生は渋谷区に住んでいる人か、渋谷区で働いている人から、年に数回、ユニ

2005年11月 有志によるシブヤ大学設立プロジェクトスタート。その後、東京都より特定非営利活動法人設立の認証を受け、2006年9月に開校。
<http://www.shibuya-univ.net/>

この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

福島県議会議員 江花 圭司



こんなまちにしたい！

キーワード #wine #coffee #bicycle #organic #eco #work

特に**重要**なのは

「若くてクリエイティブな人たちを最も引きつける町」
にすること

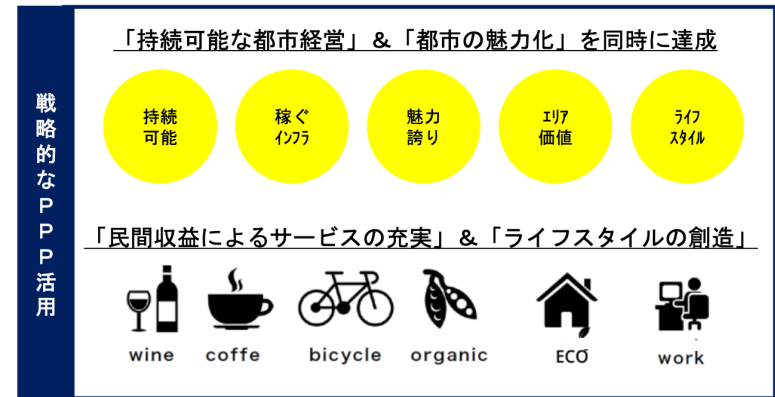
「自転車に一番よい町」

「歩くのに一番よい町」

「ベジタリアンにとっていい町」

「女性のビジネスが多い町」

「持続性社会の町」



こんなまちにしたい！

ご清聴ありがとうございました。



この資料はこちらのQRコードからダウンロードできます

福島県議会議員 江花 圭司